

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成25年度 第2回公民館運営審議会
開 催 日 時	平成26年1月22日(水)午前10時~午前11時45分
開 催 場 所	所沢市役所低層棟3階 全員協議会室
出 席 者 の 氏 名	高橋等、北田耕一、中村龍太郎、藤野邦夫、内野幸雄、三原由紀子、梁瀬正明、山崎修央、小笠原幹郎、佐藤一子、倉持伸江
欠 席 者 の 氏 名	北田有司、内田喜久男、越阪部芳加、本橋賢一
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	教育総務部次長・斉藤雅裕、中央公民館長・木下哲、小手指公民館・金田俊一、吾妻公民館長・大野正和、柳瀬公民館長・増田和彦、新所沢公民館長・高橋美代子、山口公民館長・矢沢信男、並木公民館長・青木健太郎
議 題	(1) 公民館事業・運営について (2) その他
会 議 資 料	
担 当 部 課 名	教育総務部社会教育課 浅野浩一課長、原初恵主査、山岡順子主査 電話 04(2998)9242

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
次長	<p>1 開会 社会教育課長の司会により開会した。</p> <p>2 あいさつ 本日は、第 2 回公民館運営審議会にお忙しいところ御出席いただきましてありがとうございます。教育長は所用があり代わってごあいさついたします。 本年も新しい年を迎え、所沢市でも新春のつどい・成人のつどいを行いました。みなさま方に中心となっていただきましたことを改めて感謝申し上げます。本日の会儀は、次第にありますように地域と団体・サークルとの様々な関り、あるいは地域情報の収集提供ということで、地域の中で公民館がどのように育っていくかが大きな課題だと思っています。地域の中には優秀な人材もいらっしゃいます。なかなか表に出てこれない方もいらっしゃると思いますし、地域にはいろいろ特色を持った施設もございます。そして、地域にはたくさんの方がいます。そういうものを掘り起こして地域に発信していくことが大事だと考えております。限られた時間ですが、忌憚りの無いご意見をちょうだいすることをお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。ぜひ今日はよろしくお願いたします。</p>
委員長	<p>皆様には、お忙しい中御出席いただきありがとうございます。お正月には、いつも楽しみに見ている駅伝がありました。一生懸命一年間練習をして心をついにたすきを必死になって走ってつないでいる姿に感動しました。私は荒幡に住んでおり、地元の小学校では年に 2、3 回地域と学校との連絡協議会を開催しています。町内会の幹部、民生委員、学校関係者、防犯や交通などいろいろな方に出席していただいています。私は 10 年前から学校の役員として参加しており、地域と先生とで会議をしているわけですが、これによって目に見えない素晴らしいたすきがつながれていると思っています。これからも地域の安心安全のために努めていきたいと考えております。</p> <p>（議事に先立ち、事務局が配付資料を確認した。）</p>
委員長	<p>3 議事 公民館事業・運営について、議事進行を委員長にお願いした。 それでは、本日は「公民館事業・運営について」ということで、何点か皆さんからご意見をいただきたいと思っております。前回まで主に公民館事業についてご意見をいただけてきましたが、公民館活動は、これまでの答申や提言にもあり</p>

<p>事務局</p>	<p>ますとおり、昔から地域活動の拠点として、様々な取り組みをしてきました。 本日はサークルと地域の関りや、施設利用、公民館だよりなどについてご意見をいただきたいと思います。 はじめに議事(1)として、団体・サークルと地域のかかわりについて事務局から説明をお願いします。 先日、皆さんに本日の会議に向けてお願いをしていました項目の一つ目です。タイトルを「公民館利用団体・サークルが地域に関わる」としましたが、公民館という施設で行っている活動は自己完結するものではなく、いずれ地域の皆さんへ還元していただくことも含めて行なっていただくことが望まれるものです。ところが定期的に利用するサークルは自分たちの趣味を楽しんでいるだけという声も聞かれますので、公民館として公民館を利用している団体・サークルに、地域貢献に関して呼びかけていく必要性、そしてその具体的なアイデアについてご意見をいただければと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ぜひ皆様のご意見、思いついたことなどを活発に発言していただければと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>高齢世帯の比率が高い並木地区での活動、サークルの関り合いについて申し上げます。私は、並木公民館開設当初から体育協会設立運営や他の事業に携わってまいりました。時代の変化と高齢化の波に伴い、団体競技チーム・サークルの激減で交流事業の存続が危がまれている状況です。最近、個人で楽しめるグランドゴルフ等を公民館事業に取り入れてもらい、地域行事にあまり参加されていない方々に関心をもっていただき、そして、体力健康づくりの一環として参加を促すように年二回の大会を計画開催しています。大会には公民館体協の開催に合わせて地域の自治連合会加盟団体にも共催事業として参加を促し協力いただくことで、まちづくりセンターの機能に役立てる継続事業として進めているところです。また、次世代を見据えた交流スポーツとして、社会教育課やスポーツ振興課の指導により、西武ライオンズの協力で小学校の4,5年生の必修科目のテーパーの振興に並木地区も2年前から取り組んでいます。今月の19日には、小学生から大人までの交流大会を開催し、大変好評を得ました。また、地区のさくら児童館が民間委託になりましたが、新館長からの要請でスポーツ推進委員に指導をしていただくことになりました。児童を指導する事で親との交流も深まり、地域の方に貢献できることを期待しているところです。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>ありがとうございます。他にご意見はございませんか。 新所沢公民館は、場所がとてもよく、駅から近くて集まりやすい場所で、新しくなって部屋の数もたくさんあり、利用者がすごく多く満室が多いです。地域の方にとどまらず広範囲から来ている方が多くて、自分たちのお楽しみとい</p>

	<p>う色がとても強い気がします。まちづくりセンターになってからは、文化祭をもっと地域にひらこうと努力をしています。地域貢献というと、どうしても何をすればいいの、どこにいけばいいの、代表何人出せばいいのという形になってしまいます。そういうことではなく、皆さんの活動されているところをもっと幅を広げていただいて、地域の自治会であるとか、子ども会やPTAの人たちと行事を通して顔をつなげていただいて、文化祭そのものでは地域貢献という具体的に何ということにならないかもしれませんが、つながりを広げていくことで次に進むということかと思えます。新しく何かを誰かをということにとっても難色を示す傾向があり、高齢化であるとか若い世代が忙しいとかでそういうことになっていると思いますが、今あるものを十分に活かして顔のわかるお付き合いにしていくことが一番いいのかなと思います。公民館では自分たちがやっていることとか狭い目で見がちだと思います。ただ、そこに来ている人はあれもやっている、これもやっているという人が多いので、情報をいろいろなところに飛ばして貰う。例えば、私でいうと自治会とか小中学校にも関わっているので、そういうところにこの地域ではこういうことをやっているんだよという情報を飛ばして貰うことができるのではないかと思います。あと、高齢化というのはどこでも抱えている問題なので、若い世代に引き継いでいくための情報交換も、これからいろいろなところでなされていくことだと思います。中間層の横のつながり、子ども会であったりPTAであったりというのなんとか努力をしたいところですが、そこは今一番厳しいところかなと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。前回の会議で将棋を例にあげて公民館サークルが地域に出張できないかという意見がございましたが、その辺はどうでしょうか。</p>
委員	<p>市には、出前講座という制度がありますね。そういう感じで家庭教育学級や町内の勉強の講座やレクリエーションの会などに定例ではなくピンポイントに出向いて行くという形であればいいのではないのでしょうか。前回は、出たいけれども出られない人のところというサービスのなもんだと思いますが、個人的に行くのは難しい気がします。中間層のためや町内会の何か行事に出向くことはできると思います。そういうところから出て行くこともできるんだなということを重ねて、将来的には、出づらにお宅に訪問してということも可能になるかと思えます。いきなり個人の囲碁をやりたい、出向くのが大変という人のところに出向いてくれないかとサークルにお願いするのは難しいかもしれないですが、やることある程度できてきて、出張可能な人の登録制度などが広がれば可能性としては、なくはないと思います。</p>
委員	<p>民生委員の方は、一人で住んでいるお年寄り孤独死という影響もあるので、お年寄りのところを回っている話をしていて興味とか困っている</p>

ことなどの状況を良く知っています。趣味はあるが足が弱くて出られない、障害をもってやりたいけれどもできない、家族が公民館に連れて行ってあげられるかなど、なかなか難しい場合があります。新所沢東公民館では、子どもたちを集めて将棋大会とか将棋教室とかを実際にサークルでやっています。あと、北高のバトン部が小さい子たちを集めて目線に合わせて1・2回教えてくれる。3才・4才の子がそれのできるようになり、それをお母さんたちの前で披露しています。それを一歩進めて、孤独死などの対策のために年に1回でもいいからそういう機会を設ければ、やってみて楽しいと思えばなんとかして来たい人もいるでしょう。そういうことができれば、結構囲碁とか将棋とか趣味で持っている人が多く、テレビとかゲームでできなくはないが、やはり人と人の会話が楽しみなんです。自分の趣味とか興味のあるものには参加するけれども興味が無いものには一切参加しない。今そういう傾向が非常に強い。公民館に来る人は動けて趣味があって問題ないわけです。趣味があるけれども公民館に来られない人をどうするかということで前回お話をしたんです。これからの時代、高齢者がどんどん増えて、今のままだと公民館の活動がどんどん減っていく時代で、小さな子どもたちも大事、でも歳を取って動けなくなった人たちをどうするか。美原町の場合、1400世帯の内457人が75歳以上で30%を超えている状況でこのままどんどん増え半分を超えてしまうのではないかと懸念しています。そうなると動ける人が非常に少なくなってきて、町会の運営が大変だなと頭が痛いのですけれども、他の町会の話聞いてもみんなそんな状況です。長生会の8町会のうち花園が解散しました。松葉町は活動休止している状況で、活動しているところも今のリーダーが辞めていけば、わからない状況です。今までは長生会で楽しんで集まっていたのですが、長生会に行かなくても自分の好きなことはできる。長生会の意味がなくなってきた。役員やると面倒だと辞めてしまう人、年齢的に動けなくなって辞める人もいます。それと同じ傾向が公民館にもあるはずで。そうなったときにただ待っているだけでは、公民館活動がどんどんしりつぼみになってくるのではないかと不安がある。サークルがたくさんあるのだからその中で協力してくれるサークルがあるのなら、場所を公民館から町会の会館とか、場所を設定して地域を指定して、各地域の公民館の中で、一辺に全部やれというわけではなくて順番に、例えば今年は花園町でラーク所沢を借りて何かやるとか、そういう形で出張してもいいのではないかと、登録した人に対してそうしてもいいのではないかと思います。例えば将棋サークルでも10人以上いると思いますが毎月ではなく、最初は2・3ヶ月に1回でも半年に1回でも年に1回でもいいから、各サークルができることからやってもらえれば。また、来て欲しい人が4・5人しかいなければ、交替でやったら3ヶ月に1回行けばいいわけですからで

<p>委員長</p>	<p>きるはずなんですね。ただ参加者は全員毎月参加するわけではないので半年に1回とか年に1回でもいいです。その結果どうだったか調べてみる必要があるのではないかなというのが前回の私の意見です。</p> <p>サークルにいろいろ要請する機関というか、例えば公民館から要請することも必要ですよ。</p>
<p>委員</p>	<p>公民館から要請してもいいし、民生委員から公民館を通して要請してもいいし、趣味があるけれども動けない人がここにいますとか、火曜日なら家にいるのでよかったら来て欲しいとか、一人で行くのは大変でしょうから二人とか組でやるとか。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。学校では、地域の方やサークルなどが応援団として関わっていることがあると思いますが、何かありましたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>小学校の立場で公民館の地域貢献という視点からまとめてみたのですが、個人的に公民館を活用する方たちが地域貢献をしなくてはいけないという考えはなくていいと思います。公民館を活用してコミュニティの醸成という大きな目的はありますから、地域の人たちが公民館を利用して自分の趣味を広げていく、仲間を作っていきこれが大きな狙いであり、それに加え、小学校でこういう活動が可能だよ、民生委員からこういう情報があって、一人の老人がいて将棋を希望しているとかお茶を希望しているとか、情報をさしあげてサークルが私たち行ってやってみようかだとか、そういう意味での地域貢献は可能だと思います。具体的に小学校で可能な活動は、公民館で読書サークルがあるならば朝授業の前の読み聞かせ活動に、学校に来て子どもたちの前で本を読んでもらう。多くの小学校では保護者に読み聞かせボランティアとして募って行っています。一部の学校では保護者以外に公民館のサークルに協力を要請しているかと思っています。例えば、書道サークルがあるのなら、この時期、書初めの練習に各学級のお手伝いに来てもらうとか、手芸サークルがあるのなら家庭科クラブがありますので、教員と共に手芸の得意な方が学校の家庭科クラブにご協力いただく。また、自然を守る会のサークルがあるなら、小学校で総合的な学習の時間という地域学習に取り組んでいる学校の講師としてお話をさせていただく。先ほど囲碁将棋のお話がありましたが、クラブ活動がありますので教員と共に子どもたちに囲碁将棋を教えていただく。こういうことが具体的に可能かと思っています。学校でそういう要望を公民館に伝えたり、公民館でサークルの方たちにこういう要望があるので地域の小学校へ行って可能かどうか打ち合わせをしてくださいと伝えていただくとか、公民館が場の提供と共に情報の提供もしていくことが、これから大事なのかなと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどお年寄りがなかなか集まる機会がないということでしたが、これはサークルとはちょっと違いますが、私は中央地区の旭町で、社会福祉協議会の組</p>

委員	<p> 織にお願いしてお年寄りだけを集めています。お年寄りの方が約25名、それからサポートする方が25名、合計50人くらいが月1回集まります。夏休みには子どもたちにも来てもらってお年寄りと一緒に話をするという集まりをしています。これは無料ではなく、参加費200円ですが、手の消毒から始まって、健康体操的なことをやって、お年寄りは来るのが早いです。1時半から始まるとしたら12時半には来てしまいます。ですから、役員はその前に行って準備しないと間に合わない。来週の火曜日に年明けなので皆で食事をする事になっています。暮れはクリスマスのおきで、サンタの格好してお年寄りにお菓子を配る。そのように毎月集まって話をするのが楽しみになっています。町内で将棋もやっていた。地域の人でも大勢来て場所を提供していましたが、将棋をする人が皆さんタバコを吸うのでタバコが苦手な人は来なくなり、でもどうしても好きな人は他のところに行くと思います。お年寄りが地域でどうしても一人暮らしで寂しいのだったら社協にお願いして、そういう組織を1回作ってみて、そのかわりメンバーは大変です。月々交替でお菓子を買物に行ったり、何人来るかを民生委員がチェックをして、民生委員と町内の役員が中心になってその話し合いをしています。また、グランドゴルフの話が出ましたが、高齢化になって、体育祭をやるにも駅周辺には小学生が3~4人くらいしかいないので、子どもに運動会に参加してくださいと言っても、種目に出てくる子どもがいない。そういう状況なので体育祭を辞めようという話も出ています。ところが実際に集まると1600人~1800人が集まり、勝てば盛り上がる。それが地域のつながりになっているのではないかと考えています。 </p> <p> 地域としては公民館まつりをしています。登録している全サークルが何か行事をやるわけです。そのときには町内にも情報が流れてきます。見に行けば健康体操やダンスやカラオケが交互に発表しています。絵手紙や写真などがロビーに展示してあって、地域の人に見に来てもらう。それが公民館を利用しているサークルの人の発表の場です。中央地区公民館連絡協議会では、12の町内が一つになっているので地区公民館ごとにいろいろな行事を計画しているわけです。手芸や陶芸や自分たちの作品を年に1回中央公民館にもって行って見ってもらう。地域で活動した内容を今度は逆に町の中に持って行って作品を見ってもらう。サークルの人は練習の成果を見ってもらう。質問に合うかどうか分かりませんが、そのような活動の状況をお話しました。 </p> <p> ちょっと団体サークルの話とは、ずれてしまうかもしれませんが、母が高齢者になりつつあるところで、私は社会教育とか公民館とか専門で勉強をしてきましたが、実際にどういうプロセスで地域に関していくかをまさに母を通して見ているところがあります。去年は高齢者センターにデビュー、今年は図書館にデビューしたとカードを見せてくれました。母の学習プロセスを見えています </p>
----	--

と、最初は暇つぶしだったり一人暮らしなので他にやることがないからという動機のようなのですが、やはりいろいろな人に声をかけていただいたり、パソコンの先生も高齢者でそこから交流ができた、仲間ができた、最近では健康体操もやり始めました。

一方でいろいろな講座でお話を聞きますと、既存のサークルには入りづらいという話も聞きます。既に人間関係ができてしまっていたり、レベルがわからないので自分にマッチするのかわからない。サークルを紹介してもらっても実際に参加するところまでいくにはハードルが高いという話を聞きます。サークルということに関しては、立ち上げるのを援助するというのも一つの手かもしれませんが、今在るサークルに新しく参加したいニーズをもっている人はたくさんいると思うので、つなぐということをはたして工夫できないかなと思います。先ほど中間層の話がありましたが、授業の中で大学生に公民館の利用者を広げたり、期待される役割は何だかと思うかと聞くと、公民館は子どもと高齢者が使うところとか古いとか暗いとかいう学生も多いのですが、子どもの時期に利用した学生も多いですね。子ども会活動で利用したり、地域の人にいろいろよくしてもらった経験をもっているのです。ただ、今の自分にとって関係ある施設だとはあまり思えてなかったりするようです。授業で昔の青年活動とかをビデオで見せたりすると、昔はこんなふうに若者たちが集まっていたんだねと言ったりします。そこでどのように利用者広げていったらいいか何が現代に期待されているかと聞くと、若者たちもやっぱりつながりということ 키워ドとして出します。もちろん学校や仕事や家庭があったりすると居場所はあるのですが、それ以外のつながりとか何か社会に貢献したいという気持ちを若者も持っているのだなと私自身も驚きでした。若者や中間層の人の居場所になる様な公民館の工夫ができたらいいと思います。最初は個人で利用できたり、ハードルを下げて趣味や教養的なことからでもいいかなと思います。若者たちは例えば子育て支援とか子どもの活動にボランティアとして参加とかをすすめられたら行かないでもないと言うんですね。お手伝いするという形だったらまず行けるのではないかと聞いています。先日授業で、市民と学生と一緒に公民館の講座を企画するというので、国際交流の講座を企画しました。地域の外国人と日本人が交流しようという企画です。そこに小さいお子さんを連れて人が、国際交流にも関心があるのですが引っ越してきたばかりで地域の人と顔見知りになりたいから初めて公民館に来たという方がいらっしゃった。そういうふうに入り口はいろいろでいいと思います。それがきっかけであって、そこからつなげていけるようなベテランの市民層や職員のサポートがあると広がっていくということがあるのではないかと思います。

委員長	<p>いろいろなお意見をいただきました。公民館でこれから取り組めるものがあると思います。次の2の施設利用のあり方について事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>詳しくは後程触れますが、12月6日付で公民館規則の一部改正がありました。この見直しの際に、公民館の設置目的に則った施設提供をするよう改めて指摘を受けました。定期的に利用する団体への施設提供について、また、一部、公民館は定期的に利用する人の施設のように思われているところもありますので、本来の「地域に開かれた」「地域活動の拠点」として利用していただくために、どのような場であるべきか、どのような使われ方が考えられるか、ご意見・議論をお願いしたいと思います。</p>
委員長	<p>公民館は、昔は、サークルなどは少なく、地域活動をする人の集まる場であったり、ふらっと窓口に来る人もいました。もう少しいろいろな使い方ができないか、アイデアとかご意見あるでしょうか。</p> <p>吾妻公民館ですが、昨年9月頃から改修工事がありまして、従来は玄関入って右側が公民館、左側が出張所にわかれていましたが、事務室が一つにまとまったので、そこで空いた事務室をどうするのかと聞きましたら、予約をとらないでいつでも開放して打ち合わせができるような場にしたいということでした。ちょっとした打ち合わせにも使えていいことだと思ったのですが、他の公民館でもそういう場所があれば発言いただけたらと思います。たまたま成人のつどいの代表者としてつい最近そこを使って打ち合わせをしたので私が第1号かと思います。自由に使える場所があり、いすも10人分くらいあって会議もできるので、いい場所だなと思いました。他の公民館でそういう場所がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>各館によって利用状況は違うと思いますが、学校開放のときに登録してもらって日曜日ならこのチームが何時からソフトの練習、それが終わると子どものチームの練習という日程を組んでいます。先日いきなり離れたところからサッカーの練習をやらせてくれないかということがありました。そうすると所沢小学校まで来るには、子どもが自転車で来るということで道中の危険性もあるわけです。もう日程は入っているので、ある程度登録制というか空き状態を表示するとかしないとダブってしまう場合もあるのかなと思います。ダブらないようになればいいのですが、全体的には登録制も必要だと思っています。</p>
委員	<p>先日、新所沢東公民館を利用しましたが、待ち時間にロビーにソファがあったくつろげるところがあってこれはいいなと思いました。一つの部屋があったらパーティーか何かでいくつかに区切って、4人掛けくらいのいすとテーブルがいくつかあれば、空いた時間でそこを利用できるのではないのでしょうか。公民館によって違うと思うのでそれぞれに見合ったやり方でやればよいと</p>

委員長	<p>思います。山口の場合は入ってすぐに柱があってレイアウト的に難しいので、出張所が公民館のほうに動いたら使えるかと思います。</p> <p>少し狭そうに見えますが一つの部屋を空けたというのはやはり多くの人が使えていいのかなと私は思いました。</p>
委員	<p>子どもたちがサークルに行っている間に送り迎えする親が待っている場合も結構あると思うので、その人たちが休憩しながら話すところがあるといいと思います。</p>
委員	<p>公民館の定期利用サークルについては、2ヶ月前の抽選申込みで受け付けていると思いますが、比率的にはかなりを占めているのでしょうか。館によって違うと思いますが。</p>
課長	<p>登録サークルは全公民館で2000くらいありますが、館によってかなり違うようで、並木は100くらいかと思います。その利用と定期的な利用に登録していない団体との比率でしょうか。定期というのは月に何回も使われるケースが多いと思います。ただ登録していなくても空いていれば毎日使えないこともないので、並木の囲碁サークルは登録しないで明日も使いたい明日も使いたいという使い方をしています。そういうサークルもあるようです。登録していれば2ヶ月前に抽選申込みができますので、とりやすいということです。</p>
委員	<p>わかりました。</p>
委員長	<p>施設利用のあり方について他にありませんか。</p>
委員	<p>富岡地区で、敬老会を担当してまして、お年寄りがトイレを使うとき和式だとちょっと使いにくい問題があります。できれば洋式がいいのかなと思います。私も立ち上がれなくなった人を助けに行ったことが2回位あります。これから公民館は、高齢者が使うことも多いですから、できれば洋式のトイレを設置していただきたいので宜しくお願いいたします。</p>
課長	<p>予算のこともありますが、高齢化という話がありますので、検討できる部分もあると思います。</p>
次長	<p>今、全体的に和式がわからない、特にお子さんはわからないと思います。年配の方は立ち上がるときの足腰の問題もあります。今課長が申したように要望をいただくだけではなくて、どういう状況か把握する必要があるのかなと思います。小中学校につきましても要望がありまして、今後計画的にやっていくということも教育委員会の中では考えております。公民館も同じ教育施設ですので、こちらを調べながら考えていきたいと思います。</p>
委員長	<p>先生の方で、公民館を利用しにくいとかこんなことができたと思われることがありましたらお願いします。</p>
委員	<p>公民館がなくても困るか困らないかという切実感が、正直な話あまりないです。私立高校とか私立中学校の校長先生は、もし生徒が来なかったら本校は</p>

<p>委員長 課長</p> <p>委員</p>	<p>つぶれてしまうので命がけでやっています、命がけでやらないと路頭に迷うと言うのです。それを私の立場で考えると、私は公立中学校の校長なので、生徒が来なくても困らないです。そのことだけでも全然テンションが違う。今、学校が公民館がないと困るかという、困ることはないのです。地域との関りがないと学校はやっていけないというのはよくわかるんです。地域との関りで学校が助けられていることはたくさんあります。重松流が入っていて手伝ってくれる、菜の花プロジェクトで生徒の活躍の場がある。そこに公民館をあえてねじこむ必要はない。だから、公民館が何かやらないと困りますよと言わない限り前進しない。前進するためにどうするかを考えると「地域情報の収集と提供」のテーマで、どんな人に編集に関ってもらおうと有意義かという、例えば、書類の中に色があつたり、ちょっとしたプロの工夫があつたりするだけでぜんぜん違う、例えば、文章を縦書きにすると緊張感があるとプロがいると必ずそういった意見が出るのです。そういった投資をしないとちょっと先細りかな、なくとも困らないから、そこにもっていかない。強烈なキーパーソンがいないと前に進まないと思います。それで成功したのが鶴ヶ島。かなり論戦力があつていろいろ人を攻略して束ねてそして一步前進しているわけです。こういうところがだめだからこうして欲しいというキーパーソンがいたんですね。それを聞いてこれをまねして外枠だけを作ってもおそらく動かす人間がいないから前に進まない。ここは我々本気になるかどうか、本当にこの公民館運営審議会が意味あるものとしてやるのかどうか、本気がどうか問われているのです。私はなんとかしたいと思っています。私は地域内に住んでいますから、なんらかの形で最終的には地域に恩返しをしたいという使命感があるのです。しかし、そこに公民館を入れるパイプがみつからない状況です。</p> <p>ありがとうございました。いかがですか。</p> <p>厳しいご意見をいただきました。おっしゃったとおり、公民館が今何をすべきなのかということを実際にここで議論していただかなくてはいけないということに改めて思いました。今日テーマにしたことは、公民館はいつも利用している利用者の公民館だと言われてるとすれば、そうではないんだと前回の会議のご発言から始まって、地域のための公民館なんだから、地域の全ての人のための公民館になるにはどういう役割が公民館に必要なのかという議論を今日初めてしていただけたのかなと思いました。そこをどう広げていくのが今のご指摘も含めて考えていかななくてはいけないテーマだと思っています。これから具体的なことも含めてご提案をいただけたらと思います。</p> <p>公民館は、昔から地域にあって地域の人たちが自分たちの居場所として使っているということでもいいじゃないか、職員も本当に専門職が必要なのかどうか、事業予算もそこそこののではないかというような曲がり角に立っていると</p>
-----------------------------	--

思うのです。社会教育の専門の研究の中で、学校とか大学も含めて地域というものを本当に学びの場にしていくということで、自分自身のライフワークをまとめたいなと思っています。そのことを突きつけられたのが、山間部の限界集落の問題です。震災がおきてコミュニティのあり方というのが、全国的に問われたと思うのですが、被災地域だけではなくて、西日本の農山村は、集落の消滅がどんどん進行していて、2040年問題といわれていますが、農業も相当低落していきますし、それを担う人々が70代から80代ということで、ずっと限界集落とか65歳以上が50%を超えている集落の話勉強していたのです。私はさいたま市のバスが数分毎にやってくる北浦和から15分の便利な町場に32年間住んでいるのですが、自分の地域はどうなんだろうと思って、11件の小さな自治会の班の人口調査を自分でやってみたのです。そうしたら、15年間子どもが一人も生まれていない、亡くなった方が6人、一人世帯が7世帯。空き家が1件。高齢化率が44.6%でした。私が本で調べた5年前のデータで、埼玉県で最も高齢化率が高いのが、大滝村で43.6%と書いてあったので、私の自治会は大滝村よりもすごい限界集落なのだ。これは東京の富山団地で数年前に限界集落の問題が言われたのですが、本当に日本で日本人からコミュニティのつながりというのをなくしたら日本人でありうるのかというくらいあたりまえのものが、実は見えない形でどんどん足元に進行しているということなのです。全力をあげて少子化対策としてたくさん子どもを産む方向に転ずるといふことは、この10年間、政策努力をしてもぜんぜん効果があがっていない。農村の人に言わせると労働力を大都市に提供してきたのだから、大都市の人が子どもを産まないといふ日本はどんどん人口減社会になると。ところが驚くべきことに東京の出生率は日本一低いのです。沖縄とか田舎のほうが出生率は高いのです。私たち都会の人間のライフスタイルというのは、子どもを産み育て、男性女性が仕事と共に暮らしを豊かにしていくことができないこの20年間の日本の生活の現実というのをもっともつみつけて、そこを転換していくような2040年に向けての長期的なコミュニティ再建計画というものを各自治体が持っていないといふことは大変なことになっちゃうなといふ呆然とするようなことを感じております。先ほど先生の方からも地域は大事だけれども公民館はあってもなくてもいいのではないかと話がありました。たしかに皆さんのお話しの中でも社会福祉協議会の方々とか、町会の方とか地域のいろんなところとネットワークして気長な事業を地道に広げていって参加者を広げて、それがコミュニティの活性化になるんだということやってらっしゃると思うんですけども、私自身はそういう日常の地道な努力というのは必要だと思っておりますが、もう少し何か長期的にコミュニティを再建していくための例えばボランティアの育成事業であったり、高齢化というも

のを元気に乗り切っていくという、そういうところに結びつけた、地域が本当に生き延びていくために必要なことはなんだろうかということをもっともっとみんなで考えていく必要があるのではないかなという問題意識を持っています。たまたまですが、先日NHKでアルツハイマーとの戦いという番組を見まして、アルツハイマーは発症で400万人を超えていて予備軍つまり5年以内に発症する人が400万人を想定していて、つまり1000万人規模のアルツハイマーの人口を抱える社会になるということでした。これは世界一の率になりそうな恐ろしい事態です。ところがその予防法がすごく進んできているというとても貴重なドキュメンタリーでした。アルツハイマー予防のための健康体操プログラムを国立の研究所が開発されたいいのです。それはどういうものかということ、ただ体を動かしましょうとかコミュニケーションしましょうとかではなくて、科学で説明されるのですごく納得いったのですが、海馬という脳みその記憶装置に刺激を与えて、意識的に活性化する体操プログラムがいろいろ工夫されているらしいのです。そのやり方はすごく単純でちょっと難しい歩行運動をしながら、例えばしりとり遊びをすとか、100からどんどん3を引いていく計算をすとかというふうに脳を使うらしいのですね。それを見ていてこれは公民館だと思いました。今朝、家からここに来るまでに、100から3を引く、100から5を引く、しりとりでどんどん言ってみるという頭をずっと使ってここまでやってきました。そうすると脳みそが汗をかくような気がするのです。これはすごく大量の対象者が必要なので、ボランティアリーダーが必要なだけけれど、ボランティアリーダーは得るものがすごく大きいわけです。自分自身が予防できるわけですから。先ほど自分の楽しみしか興味ない、地域貢献というと二の足を踏む、この間の公民館の流れはサークルから地域に目を向ける。そのためには地域貢献だという一つの事業の枠組みというか展開の方式がつくられてきて、これはこれで有意義だと思うのですが、私はすこし大きな意味でのそれぞれの地域に見合った地域課題・地域展望というものを住民の方と出し合いながら、そこで必要な事業は何だろう、計画の部分にもう少し知恵を絞るところまで踏み込んでいく方法はないのかなということをお今日非常に考えさせられていました。私は葛飾区の社会教育委員をやっているのですが、郷土かるたを作ったとき、募集で50音なのに1000通の応募があって、そこから50を選定して、それを切り絵作家の原画の方に素晴らしい絵を画いていただいて、その原画展が今学校を回っていて、今度学校と高齢者施設でかるた大会が始まっているのですが、これは読み手から何から含めてボランティアリーダーが必要なのです。全葛飾区民に郷土かるたを広めようという文化運動になったのです。これは区民大学が作り出した一つの実践なので、本当に地域に目を向けながらその地域のよさを発見したり、地域の課題を考えたり

	<p>という部分から事業を生み出して、事業を担う人々を養成して、そして地域の中に活動を息長く定着していくような新しいサイクルをサークルから地域貢献へというところにプラスして何か作り出していく。こういうことは自分たちでやってみる必要があるじゃないかなと思います。最初に言いましたように大学が大変地域に関心を持ち始めています。大学生は就活のために必要な能力を現場でつけないと大学や高校の勉強では足りないとなっています。今朝、テレビでやっていたのは自己アピールの履歴書を書く手書きの字がへたで字を書く学校へ通っているとか、大学で字を教えるクラスをやっているというのです。何で大学で字を書くことを教えなくてはいけないのか。そういうことはいくらでも地域に学生が出てきて、教えてくださる方がいっぱいいると思うのですね。だから大学生を現場でいろいろな形で教育する。これは大学のメリットなのです。逆に大学の持っている資源を地域に活用していただいて、地域のための調査であったり、被災地などでは住民の聞き取り調査が行なわれているのですが、ものすごく大学生が活躍しているわけです。受験に困難な子どもたちのための学習塾のボランティアをほとんど大学生が担っていて、大学生が足元でできることというのを考え出して、それも貢献意識ではなくて就職アピールつまり自分のメリットのためというのが半分以上動機としてはあるのです。それはそれでいいじゃないかと私は思います。ここは早稲田大学もありますし、その他いろいろな専門学校もあると思いますので、そうしたところにどんどん対話を広げていって、お互いの異業種交流ですね、そういうところでギブアンドテイクの関係を作っていくような意識的な努力というのは、各公民館の館長を中心としたリーダーグループ、スタッフのグループ、あるいは公運審全体としてもそういう方向に打ち出していくということで、少し存在感のあるコミュニティーを生き生きと維持していくために、存在感のある公民館とはなんだろうという最後の先生の問いというのはとても重く受け止めるべきだと私は思っています。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>
	<p>山口のまちづくり協議会の現況と広報担当として活躍されていると思いますが、その辺をお話していただけたらと思います。</p>
委員	<p>前回の宿題とさせていただいたまちづくり推進協議会について、簡単に報告させていただきます。山口推進協議会は、平成24年12月に発足ということで1年経過しました。平成25年の6月現在では山口地区内で活動する34の団体が登録されています。地域コミュニティー、地域安全、地域福祉、青少年育成、地域環境、学習文化の6つの部会と広報委員会という7つの組織から成り立っています。今まで公民館事業であった大きな事業の文化祭・新春のつどい・成人のつどいが、全部まちづくり推進協議会の事業になりました。まず、</p>

<p>公民館長</p>	<p>文化祭は学習文化部会の事業。新春のつどいは地域コミュニティー部会の事業。成人のつどいは青少年育成部会の事業へとそれぞれ移行しました。私は学習文化部員で担当は文化祭だけになってしまいました。先日成人のつどいが終わって、昨年までは実行委員として開催する立場だったのですが、今回は来賓という立場で参加しました。新春のつどいの青少年育成部会のほうも初めてのことなので、実行委員も戸惑いながらやっていたところもあります。実際文化祭のほうも初めての方が半分くらいいたので、戸惑いながらやっていたところがありました。一つ問題なのが、山口公民館の運営協議会、実際に事業を検討する委員会が平成25年度は一度も開催されずにきています。山口公民館の先ほど申し上げた3つの事業以外、例えば囲碁だったり、生け花だったり、サマーキャンプであったり、菊作りだったり、小さな事業が何も検討されないまま今年度進んでいるというところで、これはどうしたものかなと。何も審議されないまま公民館の職員任せで活動されているというのが実態です。運営協議会の委員長に会ってお話したのですが、今年度は開かれないような状況で、来年度以降どうなるのかなということちょっと危惧しております。昨年末に公民館の職員に聞いたら職員も非常に困っていて、これはちょっと問題と不安に思っております。そういうところで山口まちづくり推進協議会の目指すところが、どうなっているのかよくわからなくなっております。まちづくりセンターになった時点で、3つの部門、コミュニティー部門・公民館部門・出張所部門に移行したとたんに今度はまちづくり推進協議会になって、それぞれ担当している方も自分がどこにいるのか、どのような仕事をすればいいのか、よくわからない状況になっているのが実情だと思っております。これからまちづくり推進協議会設立を目指す地区があると思いますが、十分に議論してそれぞれ役割に付く方が理解しないと、山口みたいに外から見るとうまくいっているのかなと見えて、内容は非常に不安定な状態になると思います。十分に審議して話し合ってから立ち上げたほうが良いと思っております。広報に関しましては、私は資料が何もないので館長から補足していただけたらと思います。</p> <p>山口まちづくり推進協議会の広報ということですが、こちらの広報委員会は各部会から一人ずつ代表者に出いただき、月に1回編集会議を行っております。その中で役割分担を行いまして、地域の主要な事業等公民館が関わっているものだけではなく学校の事業も含めまして取材した上で、今のところ隔月編集でまちづくり推進協議会だよりの「さわやか」を刊行しています。従来と変わったところは、今までの山口公民館だよりの「やまびこ」に入っていた内容は、全て「さわやか」の方に統合している形になっています。これは公民館と広報委員会で話し合いを持ちました結果、従来から関心が高く皆さんに見ていただ</p>
-------------	--

<p>委員長</p>	<p>いていた「やまびこ」を、推進協議会だよりを単独に出した場合にあまり見られないという場合を心配して、関心の高いものをあえて基幹誌の中に入れて、一緒に目に触れるようにしてもらおうということで、統合することにしました。あと地域の中でこういうものをPRしたいというものがあれば、編集委員会で検討して事業予定に載せていく方向でやっています。</p> <p>ありがとうございました。まだまだ情報収集と提供についてお聞きしたいところですが、時間の関係もありますので議事はこの辺で終了させていただきます。本日はいろいろな意見をいただきありがとうございました。各地区から選出された委員さんは、この公運審の会議の内容を、ぜひ各地区に持ち帰り、伝えていただきたいと思います。よろしくをお願いします。</p> <p>それでは、次に報告事項をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>4 報告事項</p> <p>(1) 成人のつどいについて</p> <p>先ほど資料をお配りしましたが、各地区の参加者の統計がでております。各地区におかれましては、委員の皆様には、様々な形でご尽力いただきありがとうございました。統計については元々の対象者に対する割合になっており、地区によっては対象者でない方が参加して高くなっているという違いもありますので参考としてご覧ください。</p> <p>(2) 予約システムの更新に伴う公民館規則の改正について</p> <p>システムが先月の12/6にリニューアルいたしました。それに伴い様式の差し替えなどが必要になり、規則を見直す機会となりました。資料のアンダーラインを引いてある部分が改正部分です。おおまかな変更というよりは並べ替えだとか、一部実情とあっていないところがありましたので、表現の修正などもしております。予約システムを導入している施設が複数ありますが、他の施設に登録している団体でも公民館を利用を希望しているときは、予約システムを利用して公民館の予約ができるように対応していくことになりました。</p>
<p>委員長</p>	<p>では、以上で報告事項は終了とします。大変ご協力いただきありがとうございました。この辺で進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>課長</p>	<p>ありがとうございました。本日は大変貴重なご意見をたくさんいただいたと思っております。意見の中でも、大学を含めた関係団体との関係、また中間層という新しいキーワードが出てきました。古くからある高齢化の問題と子どもたちとの関係をどうしていくかということも含めてこれから考えていかなくてはいけなことが公民館にはたくさんあるなと思っております。ありがとうございました。</p> <p>ここで、事務連絡をいたします。</p>

事務局	(研究集会と人間地区生涯学習フォーラムの参加の確認)
課長	5 閉会
副委員長	それでは、これで終了となります。最後に閉会のあいさつを副委員長にお願いします。
副委員長	今日は有意義なご意見を多々いただきまして、これから公運審として煮詰めていかなければならない課題をいろいろ提起していただいたと思います。まちづくりセンターとしての発足ということが大きな課題としてずっとあったわけですが、その中で公民館が何をすべきか、どう地域の諸団体と学校を含めて連携していくのかというところで、さらに大きな視野を持った活動、中心になって活動していただける住民の方々との連携、そうしたところを是非個々の公民館の中でいい実践例をつくりながら方向性を見定めていければということ感じさせられました。どうも今日はありがとうございました。
課長	以上をもちまして、第2回公民館運営協議会を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。